

ミナミキイロアザミウマによる果実被害を抑える 露地ナス栽培における土着天敵密度

近年、農薬に対する抵抗性が発達したアザミウマによる露地ナスの果実被害が問題となっています。そこで、岡山県農林水産総合センター農業研究所では、促成ナスで広く普及している土着天敵による防除法を、露地ナスに適用して、果実被害を抑える技術を開発しましたので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. 土着天敵であるタバコカスミカメとヒメハナカメムシ類の合計虫数が葉当たり 0.1 頭以上の時には、ミナミキイロアザミウマによるナス果皮被害果率はおおむね 10%以下に抑えられます (図1)。
2. タバコカスミカメ利用体系においては、栽培前半はヒメハナカメムシ類が優占し、栽培後半はタバコカスミカメが優占しやすい。
3. 天敵密度を維持するためには、天敵に影響の大きい薬剤の使用は必要最小限にとどめ、タバコカスミカメに対して影響期間の長い薬剤の使用はできるだけ控えます。
4. 土着天敵のすみかとして、圃場周囲に天敵の温存に適した植物 (マリーゴールド、スカエボラ、ゴマ等) を植栽しておくことで、高い防除効果が期待できます (写真1)。

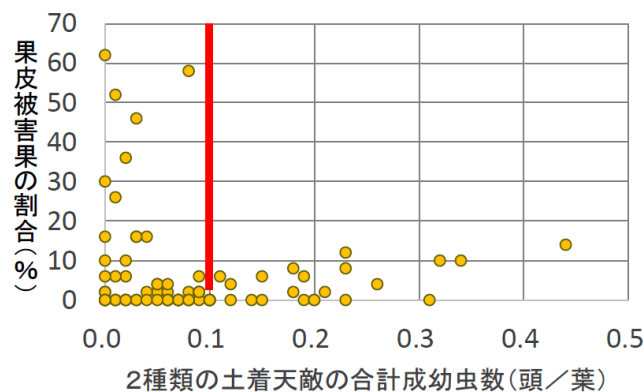


図1 2種類の土着天敵(タバコカスミカメとヒメハナカメムシ類)の頭数とミナミキイロアザミウマによる果皮被害果の割合



写真1 土着天敵を利用する露地ナスの栽培風景(防風ネットの内側にゴマとスカエボラを栽植)

☆ 活用面での留意点

1. 土着天敵虫数はナス 20 株の上中位 5 葉、計 100 葉を見取り調査した際のデータです。
2. 害虫密度が高まってから天敵を放飼しても被害を抑えることは困難であるため、害虫密度が低いうちから天敵を温存しておくことが重要です。
3. 詳しいことは、岡山県農林水産総合センター農業研究所 (TEL: 086-955-0543) までお問い合わせください。

(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 吉岡 宏)